

# 地域再生法に基づく地域再生計画の事後評価

令和4年2月  
島根県・邑南町

## 1. 地域再生計画の概要

計画名称	Oh!なんと夢響きあう元気の郷づくり計画
作成主体	島根県・邑南町
計画区域	邑南町全域
計画期間	平成27年度～平成31年度(令和2年度)
支援措置	地域再生基盤強化交付金(道整備交付金事業)
認定日等	地域再生計画認定(平成27年3月27日) 地域再生計画変更認定(平成28年3月15日) 地域再生計画変更認定(令和2年3月30日)
計画趣旨	<p>○基幹林道と町中心部を横断する幹線町道や旧町村間を連絡する路線を一体的に整備し、広大な区域となった新町内の移動環境を改善し定住促進を図る。又、林道から幹線道へ接続する地域生活道を整備することにより農林業経営の効率化を図る。この路網整備により町内各所にある社会福祉施設、病院、観光施設へのアクセスを向上させ、新たな産業の創造等、地域経済活性化による地域再生を図ると同時に緊急輸送道路としての機能を保全し、地域の安全安心を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・目標1) 農林業の振興 (各林道終点から邑智郡木材市場までの輸送時間短縮)</li><li>・目標2) 町道整備による病院へのアクセス改善 (病院等への走行時間短縮)</li><li>・目標3) 福祉車両・救急車等の通行困難な箇所改善・災害時の迂回路の確保 (町道未整備延長の解消)</li><li>・目標4) 年間観光入り込み客数の増 (91万人/年⇒97万人(H29)⇒100万人(H31))</li><li>・目標5) 林業の振興 (森林整備実施面積の増加)</li><li>・目標6) 地域防災 (緊急輸送道路の機能保全)</li></ul>

2. 目標を達成するために行う事業の実施結果

目標を達成するために行う事業	町道	施設名	区分	認定当初	変更後	実施結果	検証
		①町道中ノ原新山線	事業期間	H27~H31	H27~R1	H27~R1	H27~R1
		事業量	W=5.0 L=460	W=5.0 L=460	W=5.0 L=460	W=5.0 L=460	
		事業費	40,000千円	40,000千円	26,940千円		
		交付金	20,000千円	20,000千円	13,470千円		
		②町道高見宇都井線	事業期間	H27~H31	H27~R1	H27~R1	事業費は計画路線間で事業費調整を行ったため計画を下回る結果となっている。また、河川(砂防)沿いのバイパス区間を施工する予定とされていたが、多額の予算を要する区間であることから目標達成することができなかった
			事業量	W=5.0 L=300	W=5.0 L=300	W=5.0 L=155(暫定)	
			事業費	200,000千円	200,000千円	41,761千円	
			交付金	100,000千円	100,000千円	20,881千円	
		③町道西日向線	事業期間	H27~H31	H27~R1	H27~R1	計画路線間で事業費調整を行い予算配分を集中したため、早期に完了することが出来た。
			事業量	W=5.0 L=144	W=5.0 L=144	W=5.0 L=144	
			事業費	26,000千円	26,000千円	23,499千円	
			交付金	13,000千円	13,000千円	11,749千円	
		④県営林道三坂小林線(開設)	事業期間	H27~H31	H27~R2	H27~R3	土地所有者(国有林)との協議により林道の線形を変更する必要が生じたこと、計画区間に埋蔵文化財があることが判明しその調査に時間を要したことから、目標値は達成出来なかったが、概ね整備は進んでおり、今後も引き続き整備を進めていく。
			事業量	W=5.0 L=3,200	W=5.0 L=3,200	W=4.0 L=2,483	
			事業費	500,000千円	500,000千円	542,443千円	
			交付金	250,000千円	250,000千円	322,603千円	
		⑤県営林道皆井田円の板線(開設)	事業期間	H30~H31	H30~R2	H30~R1	地元との協議の結果、林道ではなく林業専用道として開設することになった。その協議に時間を要したため着手が遅れているが、令和3年度から測量設計1,500mを実施中であり、今後整備を進めていく。
			事業量	W=5.0 L=200	W=5.0 L=200	W=5.0 L=0	
			事業費	100,000千円	100,000千円	0円	
			交付金	50,000千円	50,000千円	0円	
		⑥町営林道本田下線(舗装)	事業期間	H28~H31	H28~R1	H28~R1	普通建設事業計画の見直しを行い本路線の舗装事業を計画していたが、県営林道開設事業の負担金に予算を集中してきたため事業を実施することができなかった。
			事業量	W=4.0 L=3,900	W=4.0 L=3,900	W=4.0 L=3,900	
			事業費	120,000千円	120,000千円	0円	
			交付金	40,000千円	40,000千円	0円	
		⑦町営林道猪子山線(舗装)	事業期間	H28~H31	H28~R1	H28~R1	普通建設事業計画の見直しを行い本路線の舗装事業を計画していたが、県営林道開設事業の負担金に予算を集中してきたため事業を実施することができなかった。
			事業量	W=5.0 L=1,000	W=5.0 L=1,000	W=5.0 L=1,000	
			事業費	52,000千円	52,000千円	0円	
			交付金	26,000千円	26,000千円	0円	
		⑧県営広域農道(保全区)邑南線	事業期間		H28~R2	H28~R3	危険箇所の解消を優先して進めた結果、目標を達成することができた。未整備区間については、引き続き別計画により整備を進めていく。
			事業量		W=7.0 L=10,233	W=7.0 L=2,510	
			事業費		159,070千円	505,240千円	
			交付金		623,000千円	252,620千円	

### 3. 目標を達成するために行う事業(その他の事業)の実施状況

項目	取り組み内容	実施状況
利用しやすい交通体系の整備	高齢者や障がい者が利用しやすい公共交通サービスを維持するため、乗降しやすい車輜更新等により、更なる町内移動の効率化・利便性向上を図る。	平成28年度に誰でも乗り降りしやすい低床型の32名乗りユニバーサルデザインのバス車両を導入した。平成30年度には三江線代替バスとしてチェアキャブリフタータイプの車椅子ごと乗車可能な6人乗り車両を導入した。平成30年度に邑南町地域公共交通網形成計画を策定した。バス停留所まで遠いなどの課題を受けて、平成31年度からフリー乗車区間を拡大、また特定非営利活動法人によるデマンド運行が羽須美地域で開始され、自宅前から地域内を移動できる交通が構築された。今後、石見地域、瑞穂地域においても自宅前から乗車できる地域内交通としてタクシー助成事業を導入予定である。
参加・滞在型観光の推進	邑南町田舎ツーリズム推進研究会を平成17年度設立。民泊受入農家を募集育成し、安らぎと憩いの空間を提供することにより特色ある農村滞在型観光を推進する	平成18年1月に会員18軒で設立した町田舎ツーリズム推進研究会は、広島市等からの教育旅行を受け入れることにより平成22年に33軒、平成29年には31軒と30軒を超えるところまで会員を増やしていた。しかしながら、平成28年の教育旅行の補助金廃止、民泊受入農家の高齢化並びに民泊新法施行による申請の煩雑さが重なり、離職・休止が進行したことにより、会員の増加傾向に歯止めがかかった。その後民泊実践者を再び増加させるため、町田舎ツーリズム推進研究会が平成30・31年度で農林水産省「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)事業」の採択を受けて、研修等による農家民泊数維持の機運醸成・新規民泊の開設支援・体験プログラム受入の充実を目的に事業展開したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、高齢の方が民泊受け入れに慎重になったことから、会員数が減少し、令和2年度現在で18軒と設立時の会員数まで会員が減少した。今後は、関係人口に着目した地域と関係人口をつなぐ窓口として滞在型に加え、参加型の観光を推進する。
新しい農業の創造	農業団地内の基盤整備を進め、大型機械の導入などによりコスト削減を図る。水稻中心の農業から付加価値産物への転換を促進する。森林整備の効率化のため、基幹林道を軸とした路網整備を進める	邑南町の農地基盤は圃場整備率は91.4%となっており、生産基盤の整備は比較的に進んでいるが、今後とも効率的な農地管理を行うためにも農地整備等を推進し優良農地の保全と面的集積を行っていく。島根県営中山間総合整備事業により平成27年からの5年間で、ほ場整備2団地8.4ヘクタール、用排水路整備1,593mを行い経営基盤の強化を行っていた。緑肥をすき込み化学肥料を使用しない安全安心なエコロジー農産物「石見高原ハーブ米」の生産を推進する一方、西洋野菜などの高付加価値農産物への取組も進めることができた。森林整備のための林道路網整備は進捗は遅れているが着実に整備は進んでおり、森林整備実施面積は目標を達成できた。

### 4. 総合評価及び今後の方向性

本地域再生計画では、町道、農道、林道を一体的に整備することで、合併により広大となった町周辺部のアクセス改善や、より採算性の高い魅力ある農業の基盤となる農地整備、町民誰もが利用しやすい公共交通体系の整備、防災拠点を連絡する「緊急輸送道路」となる広域農道の整備保全、邑南町田舎ツーリズム推進研究会による農家民泊を核とした都市交流などにより町の活性化を図ることを目的に取り組んできた。このうち、町道及び農道整備において改良事業が完成したことでアクセスの改善が図られ、整備効果が発揮できたものと考えられる。

また、山陰・山陽を結ぶ位置にあることから町の地域特性を十分活かした交流による産業の活性化を本計画で進めることとしていた。その拠点となる町中央部に位置する「道の駅 瑞穂」は、広島方面から来場者を受け入れる玄関口として賑わいを見せており、売上は年間3億円を超える状況にある。このようなことから、町内12公民館区域の人・モノ・情報を繋ぐハブ拠点施設として再整備計画がスタートしている。本計画により町周辺地域のアクセス改善との相乗効果により農業振興、観光産業等において更なる効果が具現するよう整備を進めていきたい。

## 5. 地域再生計画に記載した目標の達成状況

目標の達成状況	指標名		設定時	目標値	実績値	評価
	目標1	各林道終点から邑智郡木材市場までの時間短縮	26.8分	16.1分	21.8分	全体としては目標値が達成出来なかったが、三坂小林線については概ね整備が進んでおり、森林整備のための基盤を整えることができた
	目標2	病院等への走行時間短縮 ・町道中ノ原新山線 ・町道高見宇都井線	22分 31分	21分 30分	20分 31分	・当初計画より安価且つ工期短縮が図られたことで、早期に事業が完了し目標を達成することができた ・河川(砂防)沿いのバイパス区間を施工する予定としていたが、多額の予算を要する区間であることから目標達成することができなかった
	目標3	町道未整備延長の解消 ・町道西日向線	144m	0m	0m	重点的に予算配分を行ったことにより短期間で事業を完了し目標を達成することができた
	目標4	年間観光入込客数の増	91万人	100万人	49万人	三江線鉄道公園の開設や久喜大林銀山の国指定史跡登録を目指す動きなど新たな観光資源の開発と魅力向上により、90万人台の観光入込客を維持、拡大し、目標値に近づいていた。コロナウイルス感染症拡大がなければ、達成可能な見込みだった
	目標5	森林整備実施面積の増	314ha	324ha	389ha	森林整備は間伐を中心に計画のとおり目標としていた数値を達成することができた
	目標6	広域農道の危険箇所の解消 ・邑南広域農道	8箇所	0箇所	0箇所	割当予算の中で危険箇所の解消を優先して進めた結果、目標を達成することができた

## Oh！なんと夢響きあう元気の郷づくり計画 事後評価委員会

### 委員名簿

委員長	邑南町議会産業建設常任委員 委員長	和田 文雄
副委員長	邑南町議会産業建設常任委員 副委員長	瀧田 均
委員	邑南町議会産業建設常任委員	辰田 直久
委員	邑南町議会産業建設常任委員	大屋 光宏
委員	邑南町議会産業建設常任委員	野田 佳文
委員	邑南町議会産業建設常任委員	鍵本 亜紀
副委員長	県央県土整備事務所農林工務部長	大梶 成美
委員	県央県土整備事務所 農林工務部 治山林道G課長	榎本 賢朗
委員	邑南町建設課長	上田 修
委員	邑南町建設課 課長補佐	小笠原 清

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	島根県	事業実施主体	島根県、邑南町	地域再生計画名	Oh!なんと夢響きあう元気の郷づくり計画
計画期間	平成27年度～平成31年度（令和2）	評価責任者	島根県県央東土整備事務所 治山林道課長 榎本 賢朗、邑南町役場 建設課長 上田 修		

	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価	
		基準年度	2027	年度	中間実績	基準年度	最終実績		指標総数	達成数		
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	各林道終点から邑智郡木材市場までの時間短縮	26.8分	H27	20.7分	H29	23.1分	16.1分	R2	21.8分	△	<b>指標総数</b> <b>達成数</b> 全体としては目標値が達成出来なかったが、三坂小林線については概ね整備が進んでおり、森林整備のための基盤を整えることができた ・当初計画より安価且つ工期短縮が図られたことで、早期に事業が完了し目標を達成することができた ・河川（砂防）沿いのバイパス区間を施工する予定としていたが、多額の予算を要する区間であることから目標達成することができなかった 重点的に予算配分を行ったことにより短期間で事業を完了し目標を達成することができた 三江線鉄道公園の開設や久喜大林銀山の国指定史跡登録を目指す動きなど新たな観光資源の開発と魅力向上により、90万人台の観光入込客を維持、拡大し、目標値に近づいていた。コロナウイルス感染症拡大がなければ、達成可能な見込みだった 森林整備は間伐を中心に計画のとおり目標としていた数値を達成することができた 割当予算の中で危険箇所を優先して進めた結果、目標を達成することができた
	指標2	病院等への走行時間短縮 ・町道中ノ原新山線 ・町道高見宇都井線	22分 31分	H27 H27	21.5分 30.5分	H29 H29	20分 31分	21分 30分	R1 R1	20分 31分	△	
	指標3	町道未整備延長の解消 ・町道西日向線	144m	H27	87m	H29	0m	0m	R1	0m	○	
	指標4	年間観光入込客数の増	91万人	H27	97万人	H29	90万人	100万人	R1	49万人	△	
	指標5	森林整備実施面積の増	314ha	H27	319ha	H29	203ha	324ha	R1	389ha	○	
	指標6	広域農道の危険箇所の解消 ・邑南広域農道	8箇所	H28	6箇所	H29	4箇所	0箇所	R2	0箇所	○	
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況												
③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価							
		計画	中間年度(H29)	最終実績								
特別措置を適用して行う事業	県営林道三坂小林線(L=3,200m)	3,200m	1,871m	2,483m	土地所有者(国有林)との協議により林道の線形を変更する必要が生じたこと、計画区間に埋蔵文化財があることが判明しその調査に時間を要したことから、目標値は達成出来なかったが、概ね整備は進んでおり、今後も引き続き整備を進めていく。							
	町営林道本田下線(L=3,900m)	3,900m	0m	0m	普通建設事業計画の見直しを行い本路線の舗装事業を計画していたが、県営林道開設事業の負担金に予算を集中してきたため事業を実施することができなかった							
	町営林道猪子山線(L=1,000m)	1,000m	0m	0m	普通建設事業計画の見直しを行い本路線の舗装事業を計画していたが、県営林道開設事業の負担金に予算を集中してきたため事業を実施することができなかった							
	県営林道皆井田円の板線(L=200m)	200m	0m	0m	地元との協議の結果、林道ではなく林業専用道として開設することとなった。その協議に時間を要したため着手が遅れたが、現在測量設計1,500mを実施中であり、今後整備を進めていく。							
	町道中ノ原新山線(L=460m)	460m	460m	460m	工事区間の土質が安定していたため、舗装工、法面工などで想定上の事業進捗が図られた							
	町道高見宇都井線(L=300m)	300m	0m	0m	河川(砂防)沿いのバイパス区間を施工する予定としていたが、多額の予算を要する区間であったため予算配分することができず事業を実施することができなかった							
	町道西日向線(L=144m)	144m	144m	144m	改良事業の完成により、集落における幹線道路としての役割を担えるようになった							
	県営広域農道保全邑南線(L=10,233m)	10,233m	1,078m	2,510m	危険箇所の解消を優先して進めた結果、目標を達成することができた。未整備区間については、引き続き別計画により整備を進めていく。							
その他の事業	利用しやすい交通体系の整備	高齢者や障がい者が利用しやすい公共交通サービスを提供するため、乗降しやすい車輛更新等により、更なる町内移動の効率化・利便性向上を図る			平成28年度に誰でも乗り降りしやすい低床型の32名乗りユニバーサルデザインのバス車両を導入した。平成30年度には三江線代替バスとしてチャータリフトタイプの手椅子ごと乗車可能な6人乗り車両を導入した。平成30年度に邑南町地域公共交通網形成計画を策定した。バス停留所まで遠いなどの課題を受けて、平成31年度からフリー乗車区間を拡大、また特定非営利活動法人によるデマンド運行が羽須美地域で開始され、自宅前から地域内を移動できる交通が構築された。今後、石見地域、瑞穂地域においても自宅前から乗車できる地域内交通としてタクシー助成事業を導入予定である。							
	参加・滞在型観光の推進	邑南町田舎ツーリズム推進研究会を平成17年度設立。民泊受入農家を募集し、安らぎと憩いの空間を提供することにより特色ある農村滞在型観光を推進する			平成18年1月に会員18軒で設立した町田舎ツーリズム推進研究会は、広島市等からの教育旅行を受け入れることにより平成22年に33軒、平成29年には31軒と30軒を超えるところまで会員を増やしていた。しかしながら、平成28年の教育旅行の補助金廃止、民泊受入農家の高齢化並びに民泊新法施行による申請の煩雑さが重なり、離職・休止が進行したことにより、会員の増加傾向に歯止めがかかった。その後民泊実践者を再び増加させるため、町田舎ツーリズム推進研究会が平成30・31年度で農林水産省「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)事業」の採択を受けて、研修等による農家民泊数維持の機運醸成・新規民泊の開設支援・体験プログラム受入の充実を目的に事業展開したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、高齢の方が民泊受け入れに慎重になったことから、会員数が減少し、令和2年度現在で18軒と設立時の会員数まで会員が減少した。今後は、関係人口に着目した地域と関係人口をつなぐ窓口として滞在型に加え、参加型の観光を推進する。							
	新しい農林業の創造	農業団地内の基盤整備を進め、大型機械の導入などによりコスト削減を図る。水稲中心の農業から付加価値産物への転換を促進する。森林整備の効率化のため、基幹林道を軸とした路網整備を進める			邑南町の農地基盤は圃場整備率は91.4%となっており、生産基盤の整備は比較的に進んでいるが、今後とも効率的な農地管理を行うためにも農地整備等を推進し優良農地の保全と面的集積を行っていく。島根県営中山間総合整備事業により平成27年からの5年間で、ほ場整備2団地8.4ヘクタール、用排水路整備1,593mを行い経営基盤の強化を行っていた。緑肥をすき込み化学肥料を使用しない安全安心なエコロジ―農産物「石見高原ハーブ米」の生産を推進する一方、西洋野菜などの高付加価値農産物への取組も進めることができた。森林整備のための林道路網整備は進捗は遅れているが着実に整備は進んでおり、森林整備実施面積は目標を達成できた。							
計画外で独自に実施した事業												
④評価方法	事後評価委員会を開催し、最終目標値の実施状況に関する評価・検討を行った											
⑤事後評価の公表方法	邑南町建設課のホームページに掲載											
⑥計画全体の総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地域再生計画では、町道、農道、林道を一体的に整備することで、合併により広大となった邑南町の周辺部のアクセス改善や、より採算性の高い魅力ある農業の基盤となる農地整備、町民誰もが利用しやすい公共交通体系の整備、防災拠点を連絡する「緊急輸送道路」となる広域農道の整備保全、邑南町田舎ツーリズム推進研究会による農家民泊を核とした都市交流などにより町の活性化を図ることを目的に取り組んできた。このうち、町道及び農道整備において改良事業が完成したことでアクセスの改善が図られ、整備効果が発揮できたものと考えられる。</li> <li>・本地域再生計画により、林道の整備が進み、森林整備及び木材搬出など循環型林業の基盤が整備され、森林整備は目標以上に実施できた。</li> </ul>											
⑦今後の方針等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画において、引き続き邑南町の地域特性を十分に活かした交流による産業の活性化を進めていきたい。</li> <li>・本計画による町周辺地域のアクセス改善との相乗効果により、農業振興や観光産業等において更なる効果が出現するよう整備を進めていく。</li> </ul>											